

令和元年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）
島根県（公立）の結果概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

- ア 小学校調査
小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- イ 中学校調査
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

- ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
- イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査実施日 平成31年4月18日（木）

4 調査の内容

(1) 昨年度からの変更点

- ・ A問題（知識）とB問題（活用）を分けずに実施
- ・ 中学校で英語調査を初めて実施

(2) 教科に関する調査

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題
 ①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(3) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

市町村立小学校 196校、義務教育学校前期課程 1校及び県立特別支援学校小学部 2校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	199	199（100%）	5,577人

※未実施校 なし

市町村立中学校 92校、義務教育学校後期課程 1校及び県立特別支援学校中学部 3校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	96	95（99%）	5,399人

※未実施校 特別支援学校中学部 1校

II 公表について

1 公表の内容

(1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果

(2) 島根県及び全国の質問紙調査の結果

児童生徒質問紙、及び学校質問紙の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること

3 その他

島根県教育庁教育指導課のホームページに公表資料を掲載

III 教科に関する調査の結果

1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- 小学校国語、算数、中学校国語においては、全国平均並みであった。
- 中学校数学、英語においては、全国平均を下回った。
- 小学校国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域では、全国平均並みであったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国平均を下回った。
- 小学校算数では、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域では、全国平均並みであったが、「量と測定」では、全国平均を下回った。
- 中学校国語では、全ての領域で全国平均並みであった。
- 中学校数学では、「図形」の領域では、全国平均並みであったが、「数と式」「関数」「資料の活用」では全国平均を下回った。
- 中学校英語では、「読むこと」の領域では、全国平均並みであったが、「聞くこと」「書くこと」では、全国平均を下回った。

2 各教科の平均正答率

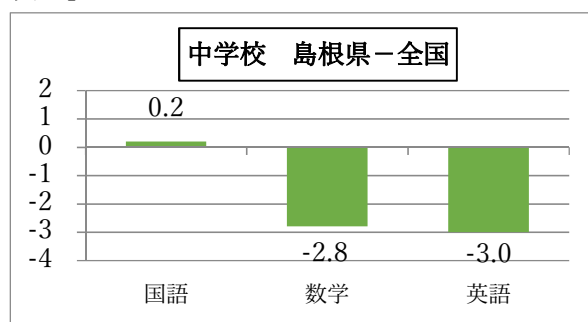
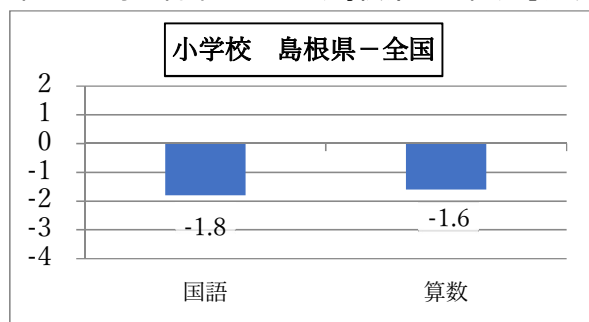
【小学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	62	63.8	-1.8
算数	65	66.6	-1.6

【中学校】

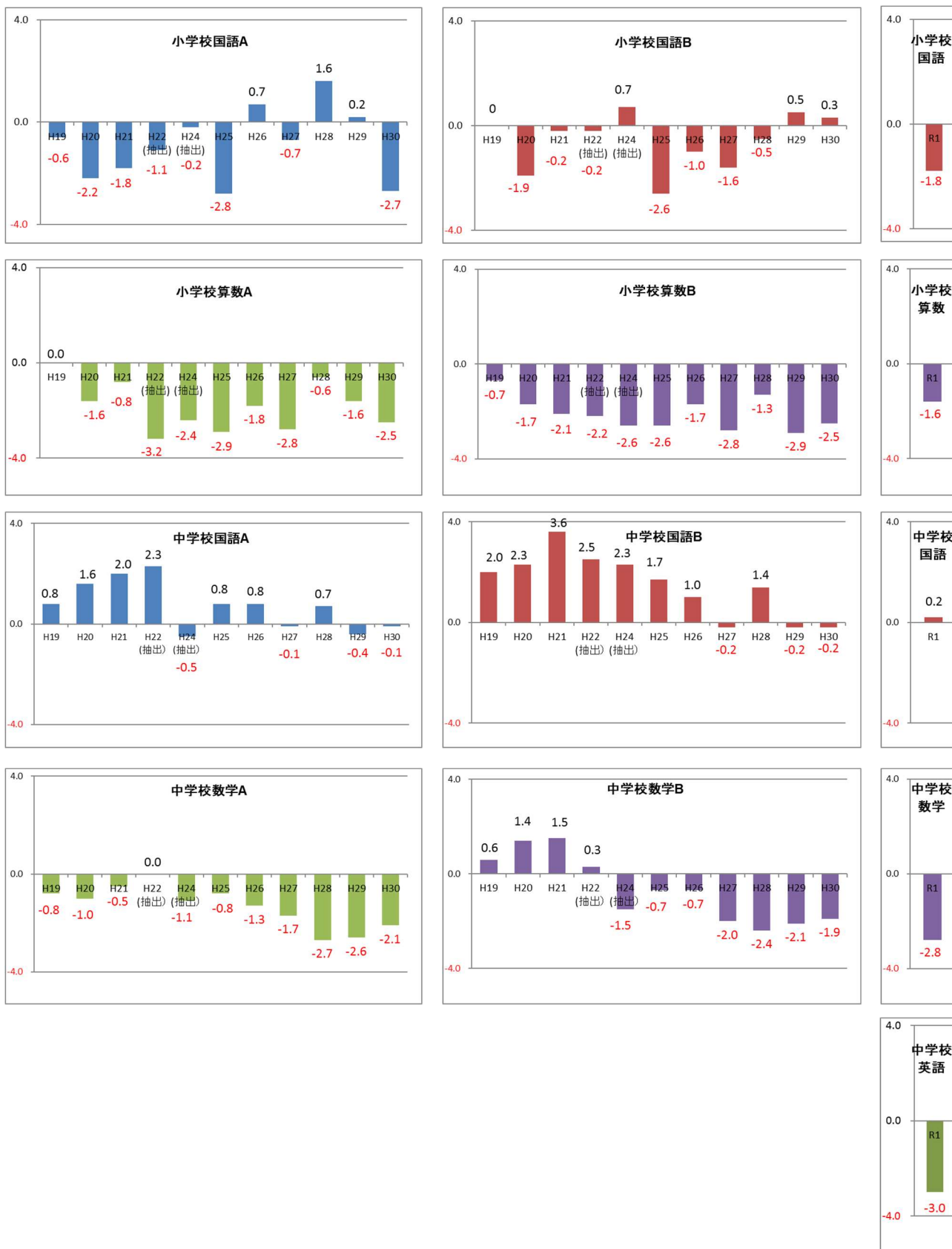
	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	73	72.8	0.2
数学	57	59.8	-2.8
英語	53	56.0	-3.0

■全国の平均正答率との差（島根県－全国）[グラフ表示]



【参考】各教科の正答率の全国との差

- 平成30年度調査までは、各教科A・B問題であったため、今年度調査はグラフを分けている。
- 英語に関する調査は、今年度が初めての調査である。



3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

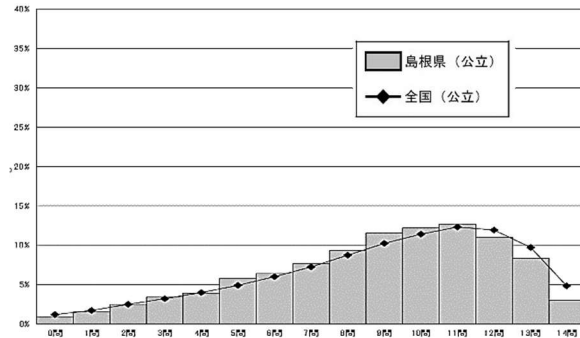
- ：県が全国を2ポイント以上、上回るもの
- －：県と全国の差が2ポイント未満のもの
- △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの

グラフの設問数と分類・区分別集計結果の対象設問数が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれているため

【小学校 国語】

- 高正答率者が全国と比較して少ない。
- 県平均正答率は62%であり、全国より1.8ポイント下回っている。領域別では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の県平均正答率は49.8%で、全国より3.7ポイント下回っている。
- 必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことや、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはよくできている。一方、漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことや、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	71.5	72.3	-0.8	－
書くこと	3	55.4	54.5	0.9	－
読むこと	3	81.7	81.7	0	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	49.8	53.5	-3.7	△

正答率上位2問

- 梅干し作りについて知りたいことを調べるために、選んだ本の目次から、読むページとして適切なものを選択する
(設問 **2**二) 89.6% (全国 88.5%)
- 豊職人へのインタビューの中で、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する
(設問 **3**一) 81.6% (全国 81.3%)

正答率下位2問

- 公衆電話について調べたことを報告する文章の中の言葉を、漢字を使って書き直す
(設問 **1**四 (1)ウ) 22.6% (全国 35.6%)
- 公衆電話について、調べてわかった複数のことをまとめて書く
(設問 **1**三) 29.2% (全国 28.8%)

【参考】

[平成30年度 国語A]

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	1	90.8	90.8	0	－
書くこと	1	72.4	73.8	-1.4	－
読むこと	2	71.2	74.0	-2.8	△
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	64.5	67.0	-2.5	△

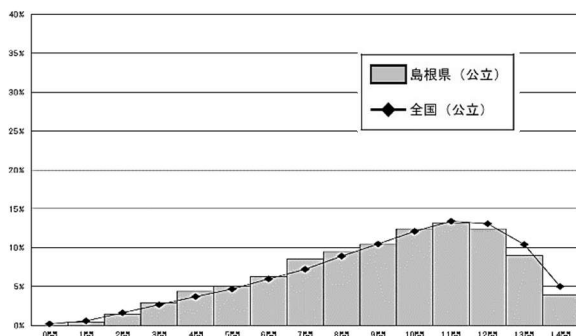
[平成30年度 国語B]

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	65.3	64.6	0.7	－
書くこと	5	45.9	45.6	0.3	－
読むこと	2	51.7	50.8	0.9	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0				

【小学校 算数】

- 高正答率者が全国と比較して少ない。
- 県平均正答率は65%であり、全国より1.6ポイント下回っている。領域別では「量と測定」の県平均正答率は50.0%で、全国より2.9ポイント下回っている。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることや、台形について理解することはよくできている。一方、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することや、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	7	61.7	63.2	-1.5	—
量と測定	3	50.0	52.9	-2.9	△
図形	2	77.0	76.7	0.3	—
数量関係	7	66.8	68.3	-1.5	—

正答率上位2問

- 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ
(設問2 (1)) 95.3% (全国 95.2%)
- 長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ
(設問1 (1)) 94.0% (全国 93.1%)

正答率下位2問

- 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く
(設問3 (2)) 30.0% (全国 31.1%)
- 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く
(設問1 (3)) 39.9% (全国 43.9%)

【参考】

[平成30年度 算数A]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	5	58.5	62.3	-3.8	△
量と測定	4	73.8	72.7	1.1	—
図形	3	53.7	56.9	-3.2	△
数量関係	5	55.3	60.1	-4.8	△

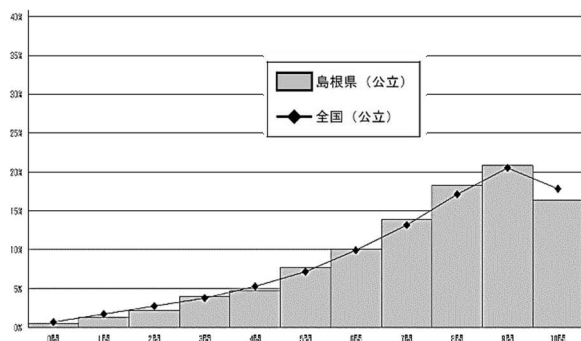
[平成30年度 算数B]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	6	55.8	58.4	-2.6	△
量と測定	4	48.8	52.4	-3.6	△
図形	2	55.9	59.9	-4.0	△
数量関係	5	42.8	45.1	-2.3	△

【中学校 国語】

- 全国とほぼ同じ傾向を示しているが、全問正答者が少ない。
- 県平均正答率は73%であり、全国より0.2ポイント上回っている。領域別では「話すこと・聞くこと」の県平均正答率は71.5%で、全国より1.3ポイント上回っている。
- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことや、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することはよくできている。一方、封筒の書き方を理解して書くことや、文章の構造を捉え、問われていることがどこに書かれているかを理解することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	71.5	70.2	1.3	—
書くこと	2	83.0	82.6	0.4	—
読むこと	3	72.4	72.2	0.2	—
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	66.9	67.7	-0.8	—

正答率上位2問

- 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く
(設問 **1**三) 92.0% (全国 91.2%)
- 意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する
(設問 **3**一) 87.4% (全国 87.4%)

正答率下位2問

- 「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く
(設問 **1**四) 55.9% (全国 56.8%)
- 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する
(設問 **1**二) 61.3% (全国 61.5%)

【参考】

[平成30年度 国語A]

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	74.1	75.2	-1.1	—
書くこと	4	73.2	73.9	-0.7	—
読むこと	4	77.4	76.7	0.7	—
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	76.7	76.5	0.2	—

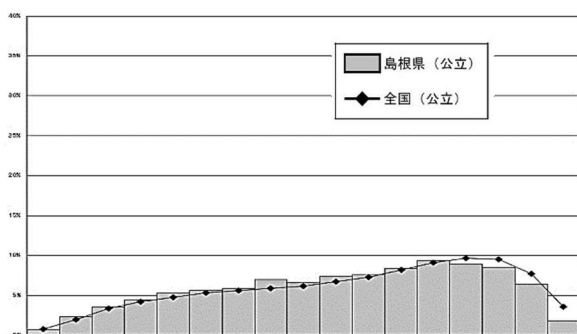
[平成30年度 国語B]

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	76.0	76.6	-0.6	—
書くこと	2	31.1	31.3	-0.2	—
読むこと	6	53.1	53.5	-0.4	—
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	50.1	49.2	0.9	—

【中学校 数学】

- 高正答率者が全国と比較して少ない。
- 県平均正答率は57%であり、全国より2.8ポイント下回っている。領域別では「図形」の県平均正答率は71.2%で、全国より1.2ポイント下回っているが、昨年度よりも差が縮まっている。残り3領域は全国より2ポイント以上下回っており、特に「関数」の領域は3.6ポイント下回っている。
- 平行移動や反例の意味はおおむね理解できており、県と全国平均正答率の差も小さい。一方、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	5	61.3	63.8	-2.5 △
図形	4	71.2	72.4	-1.2 -
関数	3	37.2	40.8	-3.6 △
資料の活用	4	53.9	56.3	-2.4 △

正答率上位2問

- $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める(設問3) 82.8% (全国83.6%)
- ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ(設問7(2)) 77.1% (全国77.2%)

正答率下位2問

- 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する(設問6(2)) 28.6% (全国34.7%)
- 冷蔵庫Aの使用年度と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ(設問6(1)) 37.1% (全国38.8%)

【参考】

[平成30年度 数学A]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	12	68.7	71.1	-2.4 △
図形	12	67.8	69.1	-1.3 -
関数	8	52.6	55.5	-2.9 △
資料の活用	4	63.9	63.5	0.4 -

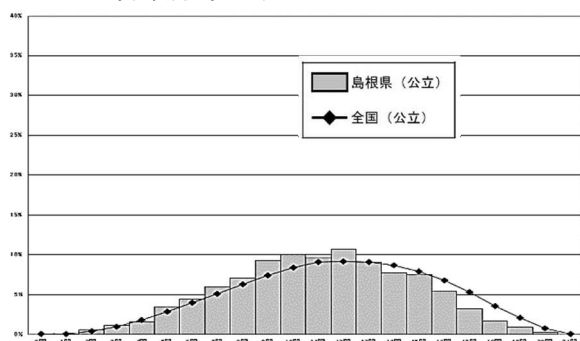
[平成30年度 数学B]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	4	49.1	51.4	-2.3 △
図形	3	45.1	46.7	-1.6 -
関数	3	51.1	52.8	-1.7 -
資料の活用	4	35.8	38.0	-2.2 △

【中学校 英語】

- 高正答率者が全国と比較して少なく、低～中正答率者が全国と比較して多い。
- 県平均正答率は53%であり、全国より3ポイント下回っている。領域別では「聞くこと」の県平均正答率は64.6%、「書くこと」40.9%で、全国より3ポイント以上下回っている。
- 短い英文の情報を正確に聞き取ることはおおむねできている。一方、与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書くことや、聞いて把握した内容について、自分の考えを書くという複数の領域を統合して活用することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区別集計結果

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
聞くこと	7	64.6	67.9	-3.3 △
話すこと (参考値)				
読むこと	6	54.6	55.6	-1.0 -
書くこと	8	40.9	45.8	-4.9 △

正答率上位2問

- ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する
(設問¹(1)) 90.1% (全国 91.1%)
- 教室でよく使われる英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する
(設問¹(2)) 86.4% (全国 88.6%)

正答率下位2問

- 学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く
(設問¹⁰) 1.1% (全国 1.8%)
- 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く
(設問⁴) 3.6% (全国 7.6%)

IV 児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果

1 結果の概要

(1) 地域や家庭に関わること

- 居住する地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小中ともに引き続き全国に比べ上回っている。〔小 23〕〔中 23〕
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という児童生徒の割合は全国と同等である。〔小 24〕〔中 24〕

△学校の授業時間以外に平日 1 時間以上勉強する中学校 3 年生の割合について、依然として全国との差が大きく、引き続き課題がある。〔中 18〕

- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、生徒に対し家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたりしている学校は前年と比較して大きく増加した。〔学小 59、60〕〔学中 73、74〕

(2) 教科等の学習に関わること

- 算数への関心等を尋ねる項目では、「算数の勉強は好きだ」という児童の割合は直近の 5 年間で最も高くなった。〔小 46〕
 - 「算数の授業の内容はよく分かる」という児童の割合は昨年度に続き上昇している。〔小 48〕
 - 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という児童の割合が全国を上回っている。〔小 29〕
- △算数の指導として、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は全国に比べ低い状況にある。〔学小 46〕

- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」という生徒の割合が全国を上回っている。〔中 34〕
- 「1・2 年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」という生徒の割合が全国を上回っている。〔中 37〕

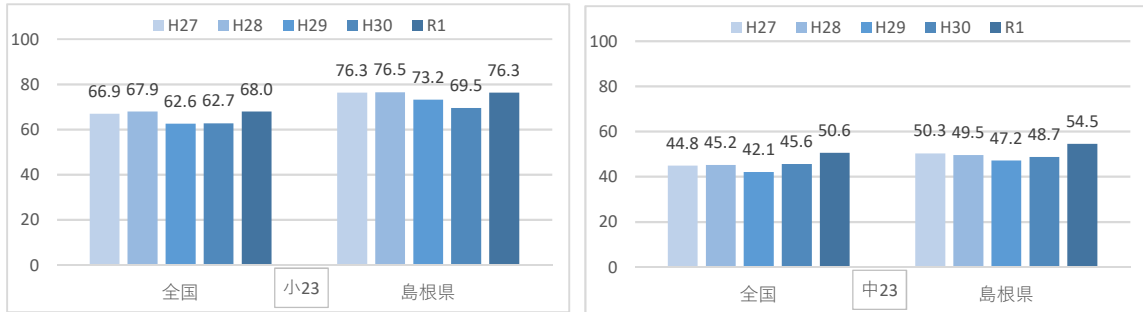
(3) 今後の取組に関わること

- 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」という児童生徒の割合が増えてきている。〔小 30〕〔中 33〕
 - 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校が増えてきた。〔学小 15〕〔学中 15〕
- △各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を意識的に設けている学校の割合が全国より下回っている。〔学小 38〕〔学中 38〕

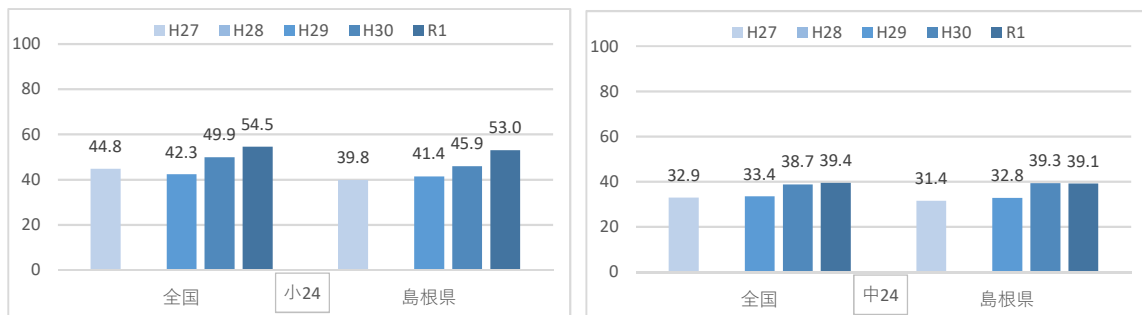
2 質問紙の回答状況 ※数値は、質問紙にあつては「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計した割合

(1) 地域や家庭に関わること

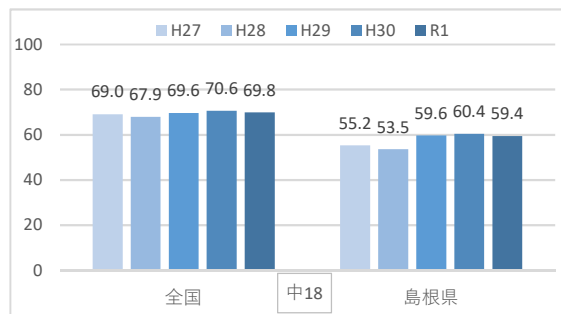
①今住んでいる地域の行事に参加している〔小23〕〔中23〕



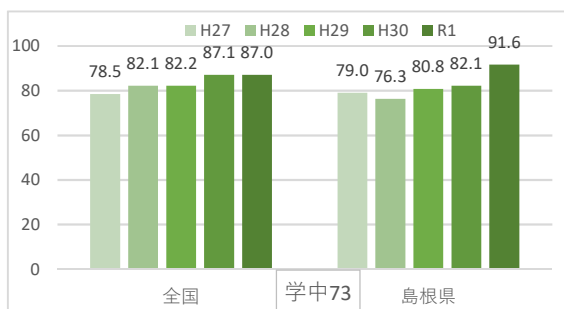
②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある〔小24〕〔中24〕



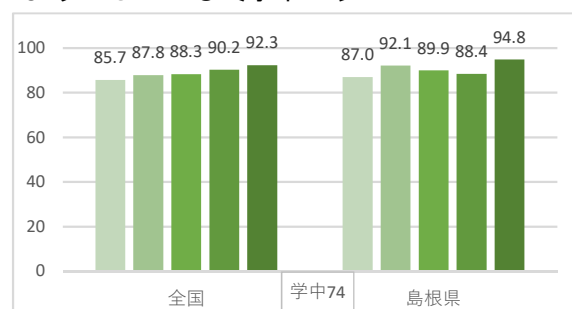
③学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する〔中18〕
（3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ないと回答した割合の合計）



④家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている〔学中73〕

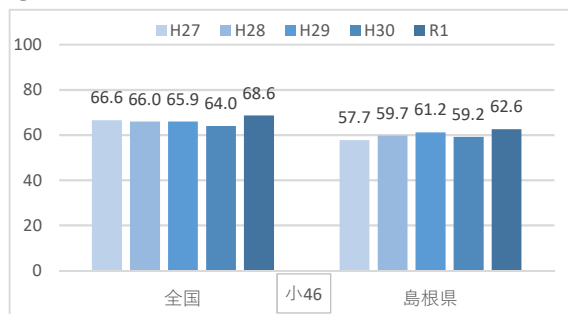


⑤家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしている〔学中74〕

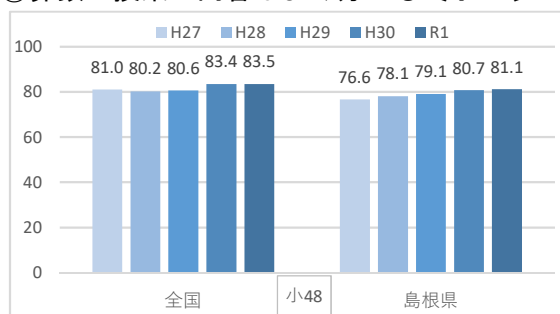


(2) 教科等の学習に関わること

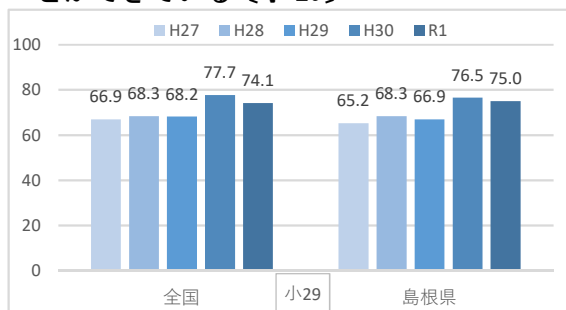
⑥算数の勉強は好きだ〔小46〕



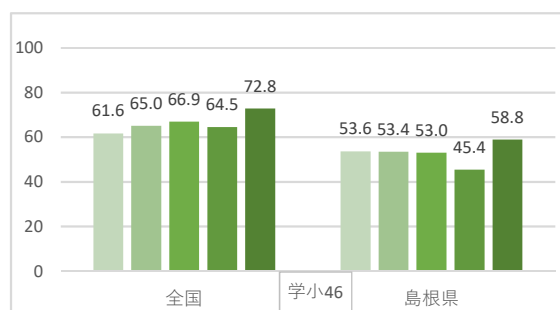
⑦算数の授業の内容はよく分かる〔小48〕



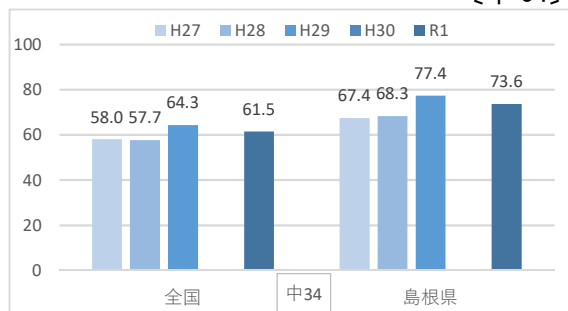
⑧学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる〔小29〕



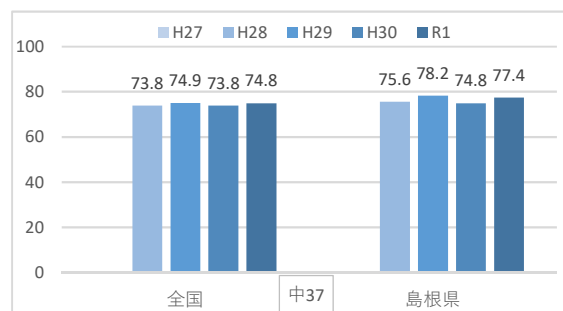
⑨算数の指導として、発展的な学習の指導を行っている〔学小46〕



⑩総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる〔中34〕

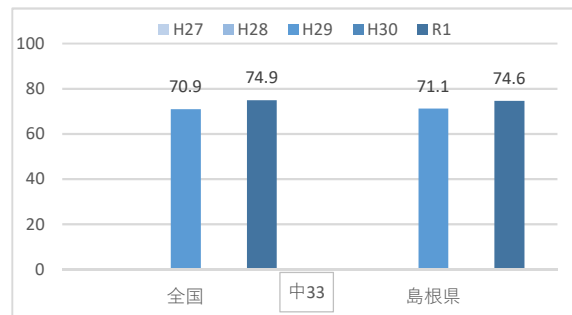
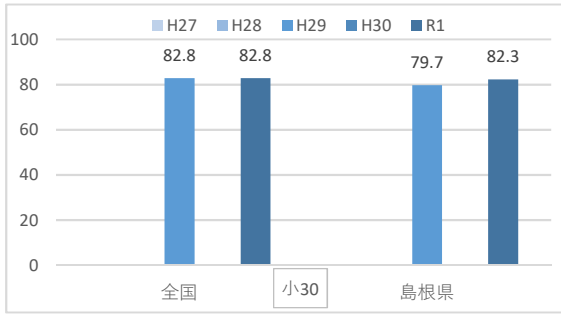


⑪1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ〔中37〕



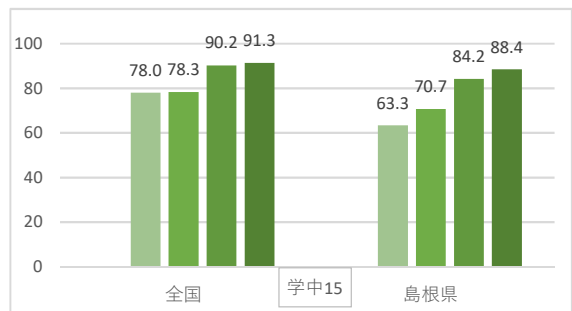
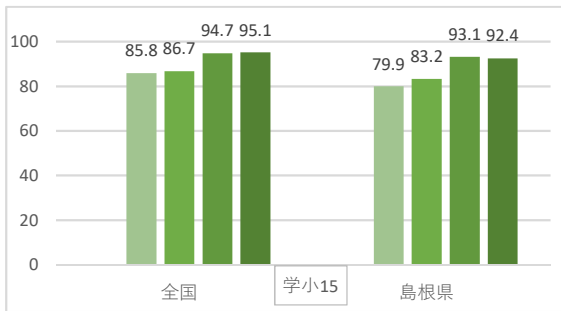
(3) 今後の取組に関わること

⑫授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている〔小30〕〔中33〕



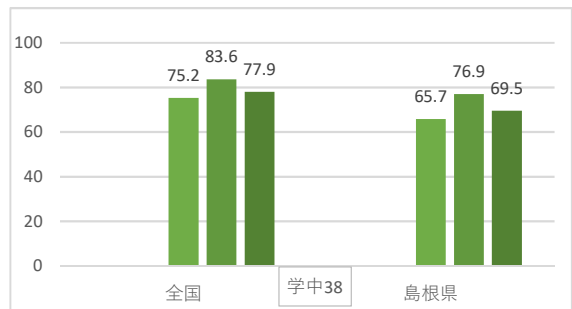
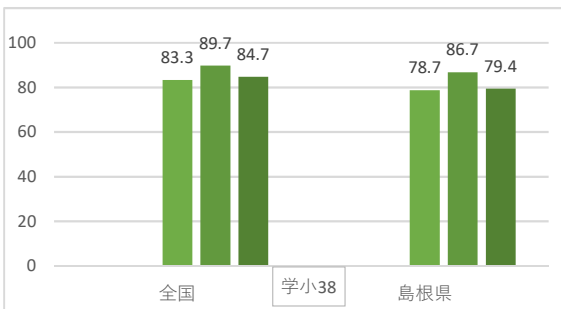
⑬指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している

〔学小15〕〔学中15〕



⑭各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けている

〔学小38〕〔学中38〕



V 今後の対応

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協働し、学力・学習状況調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

新学習指導要領の円滑な実施に向け、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を更に推進する。

島根の子どもたちが、ふるさと島根に愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって挑戦し自らの人生と社会の未来を切り開いていけるよう、「生きる力」をつける必要がある。そのために、今学んでいることと地域や社会とのつながりが実感できる授業を展開し、一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と子どもたちが感じられる授業に改善していく。

○「協調学習」による授業改善の推進

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を更に推進するために、小・中・高等学校においてモデル校を指定し、連続性と系統性をもった学習の在り方について研究を進め、その研究成果を県内の学校に波及していく。

また、子どもたちが学ぶ「意志」をもった授業とするために、家庭学習が、定着のための反復練習だけでなく授業とつながる学習となるよう、課題の在り方についても研究を進めていく。

※協調学習

児童生徒一人一人が、自分のもつ知識・技能を活用して答えを追究しつつ、他者の異なる視点や考えを学ぶことで、自分の考えをより質の高いものにしていく学び。

○「教育の魅力化」を推進し、学校・地域が一体となって子どもたちを支える体制を構築する。

※教育の魅力化

学校と地域社会がよりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよいものに高めていくこと。